

ビーだま

ビーだまのように、キラリと光る一冊を

2017年1月～12月に発行された本の中から、とくにおすすめの本を紹介します

<編集・発行> 富山市立図書館 富山市西町5番1号
電話 076-461-3200
平成30年4月23日発行（年1回発行）

ママのて

やまもとゆうこ／作 こぐま社



ぎゅっぎゅっとおにぎりをにぎって、ぴっぴっと紙ひこうきを折ってくれる大きなママの手。ありふれたものだけれど子どもにとっては特別で、魔法のように感じます。

「この手はなにしてる？」と、子どもに語りかけるように読んでみましょう。

[赤ちゃん～]

ひよこさん

征矢清／さく 林明子／え 福音館書店

ひよこさんが散歩していると、だんだん空が暗くなってきました。歩けなくなり木かげで休んでいると、お母さんが迎えにきて、一緒におうちに帰ります。

羽毛1本1本が際立つふわふわのひよこが愛らしく、ぬくもりを感じる絵本です。

[赤ちゃん～]



ぽつぽつぽつだいじょうぶ?

しもかわらゆみ／作 講談社



雨が降ってきました。ねずみさんはきのこの傘、うさぎさんはにんじんの傘をさします。ぽつぽつぽつ、ぱらぱらぱら、傘に雨音が響きます。

次の傘はなんだろう？どんな音が聞こえるかな？楽しい想像が広がります。

[幼児～]

きょうりゅうオーディション

たしろちさと／作 小学館

お芝居に出たい恐竜たちが、オーディションで特技を披露します。巨大なブラキオサウルスは司会者を15メートルも持ち上げて得意顔。パラサウロロフスは鼻息で演奏を始めました。

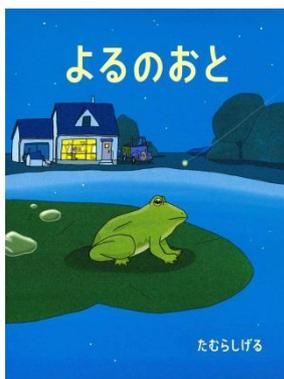
おはなしを楽しみながら、恐竜のいろいろな特徴を知ることができます。

[幼児～]



よるのおと

たむらしげる／著 偕成社



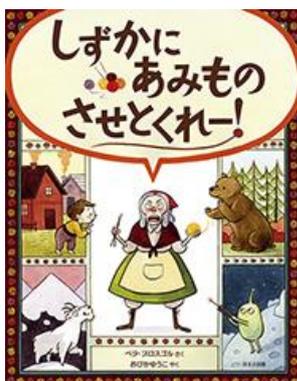
しんと静かな夜、男の子がおじいちゃんの家を訪ねます。聴こえるのはカエルや鈴虫の鳴き声と池の水音、遠くを走る列車の音だけです。

台詞や文章はほとんどなく、オノマトペで夜の様子が表現されます。ゆっくりページをめくりながら、物語や音を感じてください。

[幼児～]

しずかにあみものさせとくれー！

ベラ・ブロスゴル／さく おびかゆうこ／やく ほるぷ出版



編み物が大好きなおばあさん。寒くなる前にセーターを編みたいのに、いたずら好きの30人の孫に邪魔をされます。

静かな場所を求めて家を出たおばあさんが、行く先々で騒動に巻き込まれる様子をユーモラスに描いています。

[幼児～]

きのうえのおうちへようこそ！

ドロシア・ウォーレン・フォックス／作 おびかゆうこ／訳 偕成社

ツイグリーさんは、木の上でイヌと暮らしています。町の人からは変わり者だと思われていて、遊びにくるのはクマだけです。ところが、町を襲った嵐がきっかけになり、ツイグリーさんは町じゅうのみんなと友達になります。

アメリカで半世紀以上愛されている本です。

[幼児～]



あめのひ

サム・アッシャー／作・絵 吉上恭太／訳 徳間書店



ぼくは雨の中で遊びたいのに、おじいちゃんが待ちなさいと言います。ようやく雨があがり、ふたりで外に出ると、町中が大きな水たまりになってきらきらと輝いていました。

雨粒や水しぶきが飛んできそうなほど、透明感のある絵に引き込まれます。

[幼児～]

このあいだになにがあった？

佐藤雅彦／作 ユーフラテス／作 福音館書店



2枚の写真の「あいだ」のできごとを考えてみます。〈もこもこの羊〉と〈短い毛の羊〉、〈オタマジャクシ〉と〈カエル〉の「あいだ」には、なにが起こったのでしょうか。

すぐにページをめくらず、想像する面白さを味わってください。

[幼児～]



重力って……

ジェイソン・チン／作 竹内薫／訳 偕成社

空から1冊の本が落ちてきました。それは、〈重力〉があるから。〈重力〉がなくなるとどうなるでしょう。本も、海の水も、みんな浮いて地球から離れてしまいます！

物語仕立てのシンプルな文章で、幼い子どもでも理解しやすい科学絵本です。



[幼児～]



あおいジャッカル インドの昔話

マーシャ・ブラウン／作 こみやゆう／訳 瑞雲舎



あらぼえと呼ばれるジャッカルは、藍の大きめに飛び込んだせいで体が青く染まってしまいました。森の動物たちは青いけものをジャッカルと気付かず、王としておそれるようになります。

インドに古くから伝わる寓話です。

[幼児～]